

令和5年度 学校評価 生徒・保護者アンケート結果（12月実施）について

1 学校評価について

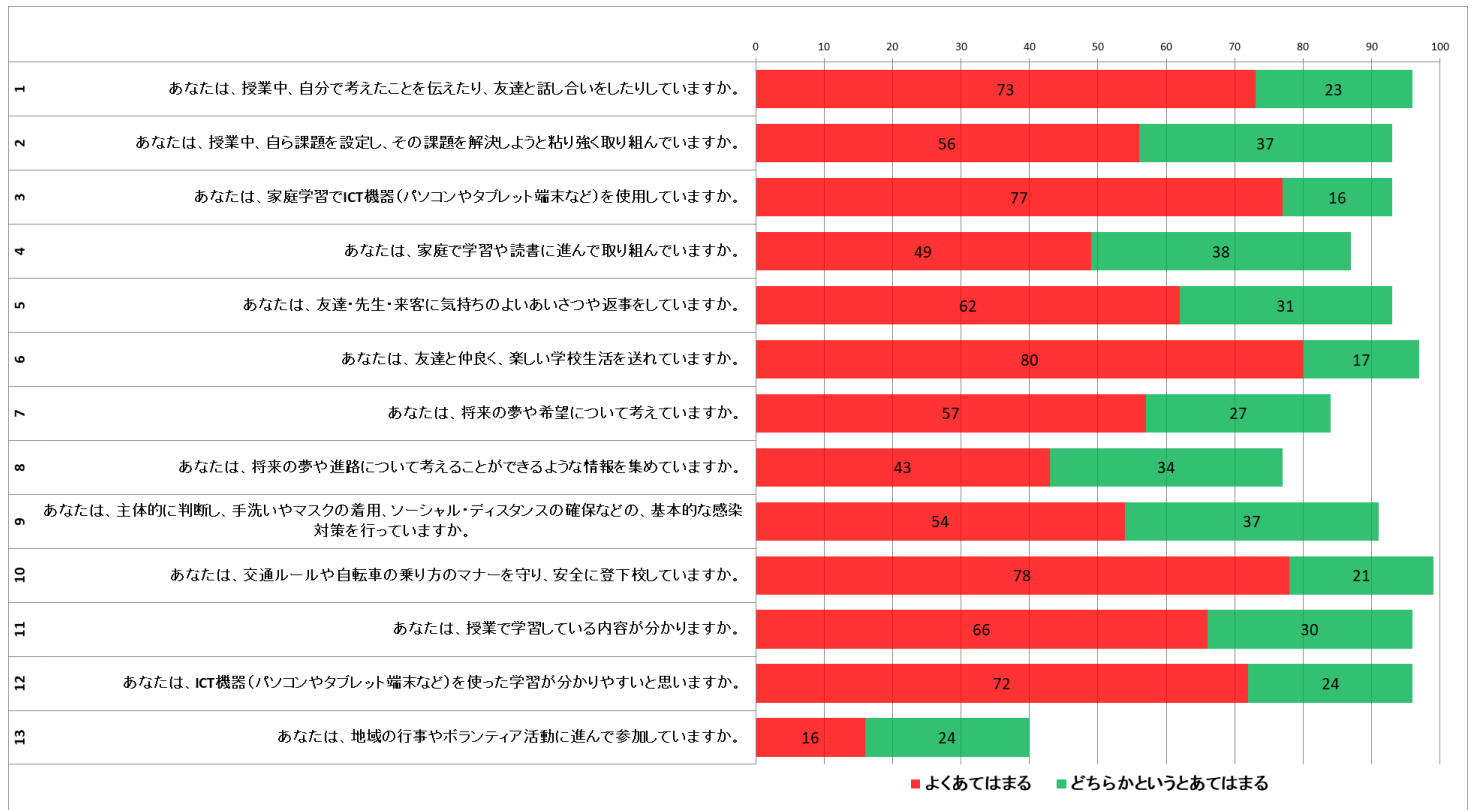
本校では、次のように学校評価を実施しています。

- (1) 生徒・保護者を対象とするアンケート調査を行う。
- (2) アンケート集計結果や自由記述の内容を基に、教職員による自己評価を行う。
- (3) 学校関係者評価や自己評価の分析から明らかになった課題を基に、改善に向けた活動を行う。

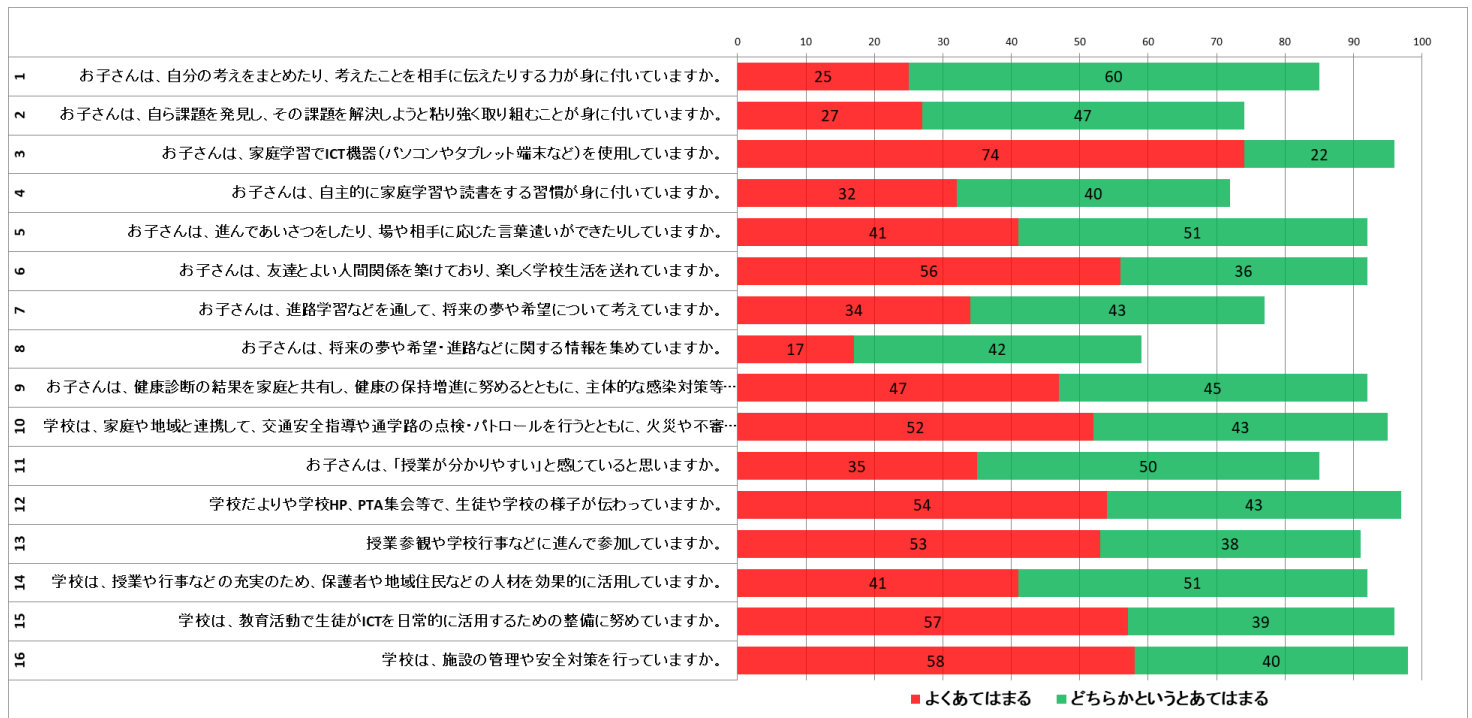
2 資料の見方

- (1) グラフの資料は、アンケートの回答の「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」・「どちらかというにあてはまらない」・「まったくあてはまらない」「わからない」のうち、「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計の割合をまとめたものです。
- (2) 「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計割合の変容が見られた項目について、<生徒>と<保護者>に分け、第1回からの変化や改善に向けての方針、ご協力をお願いなどについてまとめています。

令和5年度第2回学校評価アンケート<生徒> 12月実施



令和5年度第2回学校評価アンケート<保護者> 12月実施



「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計割合の変容が見られた項目
(第1回→第2回)

<生徒>

質問番号8 「あなたは、将来の夢や進路について考えることができるような情報を集めていますか」

67%→77%

→第1回のアンケートと比較すると、10ポイント上昇しました。3年生は、受験期に入り、三者面談を行い自分自身の今後のあり方についてじっくりと考える時間ができたり、進路が現実味を帯びてくる中で、なりたい自分になるための道筋が明らかになったりしたことにより、情報収集の大切さに自ら気づき始めたと考えられます。2年生は、PASカードを活用して、進路や職業に対する生徒自身の興味、適正を調査したことにより自己理解が進み、将来への関心が高まったと考えられます。1年生は、3学期に職業教室を開催し、その道の「プロ」の方から直接お話をうかがうことで、より将来への期待を膨らませると考えます。そして、本校が力を入れる総合的な学習の時間「未来創造科」において、自分の生き方を見つめる学習を行ったり、未来の創造をテーマに課題解決を目指して学習を行ったりしていることが全ての生徒に影響を与えたと考えます。お子さんが自分自身を理解しながら将来を主体的に選択できるよう情報提供を続け、PTA集会や三者（二者）面談等の機会において、保護者の皆さまにもお子さんのこれからの関する適切な情報提供を行います。お子さんのキャリア教育の推進に、引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

<保護者>

質問番号6 「お子さんは、友達とよい人間関係を築けており、楽しく学校生活を送れていますか。」

79%→92%

→第1回のアンケートと比較すると、12ポイント上昇しました。コロナウイルスの蔓延による閉塞的な生活から、今年度は5月より制限がほとんどない生活へと社会が劇的に変化しました。それに伴い、学校生活も制限が緩和され学校行事が充実し、休み時間に友達と自由に遊んだり話したりする時間ができました。友達との物理的な距離感が縮まり、心理的な距離感も縮まったことが1つの要因として考えられます。また、道徳の授業の充実も要因として考えられます。座席を工夫し、より生徒同士の顔を見やすく議論しやすい状況が生み出したことで、他者を受容・尊重する態度が養われたり、本音で語り合うからこそその信頼が築かれたりしたのだと考えます。楽しい学校生活とは、自分の掲げた目標を達成するために努力したり、向上心のある仲間と学習や生活、部活動において切磋琢磨したりすることにより実現するものです。つまり、附属中の生徒は、向上心をもち、素直で、ひたむきに努力できるよさをもって生活しているということです。今後も、学校が生徒にとって居心地のよい場所であり続けられるよう、生徒の変化を見ようとする目を大切に、生徒とともによりよい学校づくりに邁進していきます。